

# “福祉フォーラム2006”

## ご案内

テーマ “地域で豊かに暮らすを当たり前”

開催趣旨 10月1日から障がい者自立支援法が、不安と希望、困惑が入り混じったまま、いよいよ本番を迎えます。

「自立と共生のまちづくり」をめざし、「地域で暮らすを当たり前」を掲げる新法律の理念は、スタートから危うげだった支援費制度よりかは希望を感じます。でもその反面、利用者負担が厳しい、年金がほとんど残らないで自立は可能か、障害区分認定の結果が余りに低くて受けたいサービスが受けられない、施設収入は大幅な減でサービスがどんどん切り詰められている、デイケアや小規模授産作業所はこれからどうなっていくのか、などなど様々な不安や不満、疑問が余りにも解消されていないのではないのでしょうか。誰かのせいにしても、自立は夢のまた夢です。

障がいがあっても地域で豊かに暮らしたい。この新制度を契機にこれが当たり前の社会にしていくためには、関係する私たちは何にどう取り組むべきでしょうか。ともに考え、語り合うきっかけにしたいと思い、このフォーラムを企画しました。皆様のご来場をお待ちしております。

開催日時 2006年9月30日(土)午後1時

場所 吹上公民館(定員200名)

JR吹上駅南口徒歩3分

鴻巣市吹上富士見1-1-25

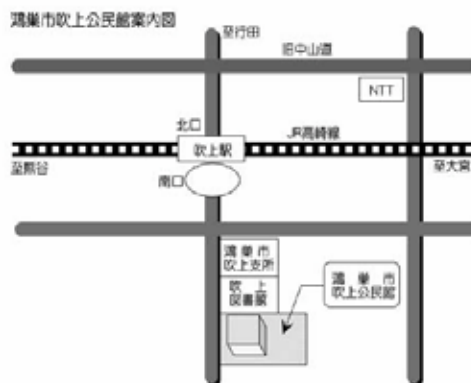
構成 13:00 開催挨拶

13:15 講演(発題)

障害者自立支援法が真にめざすもの

谷口明広 愛知淑徳大学

医療福祉学部教授



略歴：1956年、京都市生まれ。生後間もなく重症黄疸のために脳性マヒとなり、四肢および体幹機能障害で車いすを使用している。5才から6才にかけて足部に13カ所の手術を受け、京都市では入れる学校がなく1年遅れで大阪の堺養護学校に入学、高等部まで進む。卒業後、桃山学院大学社会学科進学、卒業後、同志社大学大学院社会福祉学専攻に、2年次に米国カリフォルニア州パークレー市にあるC I L

(Center for Independent Living)で自立生活概念やアテンダント制度

を学ぶ。1984年4月に修士課程を修了したと同時に地域での自立生活を実践し、自立生活問題研究所を設立する。3年間の現場活動を経験した後、同志社大学大学院同専攻の博士課程に進学する。同時に研究所の所長となり、現在は四国学院大学や佛教大学などの非常勤講師であると同時に、全国各地で講演者やシンポジストとして活躍しています。

また、平成16年度から愛知淑徳大学 医療福祉学部 福祉貢献学科 教授に就任し、福祉の仕事に携わっていく人材を育成する教育者として、自立生活支援センターという現場の最前線でピアカウンセラーとして、NHKラジオ「ともに生きる」のコメンテーターとして、幅広い活動を展開している。近年になり、障害のある人たちの自立生活と障害者ケアマネジメントの有効性に関する研究を主なテーマとしています。

- ・NHK大阪「ともに生きる」番組評議員
- ・厚生労働省障害保健福祉部企画課 障害者ケアマネジメント従事者養成研修運営検討会委員

15:15 講演 地域で安心して暮らすために、必要なもの

**細川瑞子 全国育成会中央相談室長**



略歴：お茶の水女子大学家政学部卒業。1982年 奈良市において三男が仮死状態（臍帯巻絡）で誕生。重度知的障害。1985年 三男の養育のため、一家で私の出身地富山市へ転居。その後、夫（弁護士）の事務所を手伝う。1990年 私が病気をしたため、子どもを知的障害児入所施設へ。その後、子どもを残していく社会を良くしたいと育成会活動に参加。

1995年から、富山県「障害者110番」専門相談員、1999年社会福祉士国家資格取得

現在 日本成年後見法学会制度改正研究委員会委員

富山県地域福祉権利擁護事業運営監視委員会委員

富山県手をつなぐ育成会理事・富山市手をつなぐ育成会副会長など

17:00 閉会

費用 無料(資料代500円)

主催 福祉フォーラム2006 実行委員会・障がい者生活相談支援センターしゃろーむ  
後援 鴻巣市、北本市、埼玉県社会福祉協議会、埼玉県発達障害福祉協会(申請中)、埼玉手をつなぐ親の会(申請中)

申し込み 電話かメールまたはファックスで。定員になり次第締め切らせていただきます。

障害者生活相談支援センター しゃろーむ 048-547-2064 Fax 547-3055

Mail [forum2006@hitotubu.com](mailto:forum2006@hitotubu.com)